

山形県で代理店向けの水災補償普及啓発セミナーを開催

～山形県は火災保険水災補償の付帯率が東北ワースト1 東北6県にも同時配信～

日本損害保険協会東北支部山形損保会（会長：明石 昌樹・三井住友海上火災保険株式会社山形支店長）では、やまがた損害保険代理業協会と共に、11月19日（水）に三井住友海上山形ビルにおいて、損害保険代理店向けに「水災補償普及啓発セミナーin山形」を開催しました。当日は、東北6県にも同時配信を行い、計141名（来場27名、オンライン114名）に参加いただきました。

山形県は、火災保険水災補償の付帯率が58.2%と東北ワースト1、全国ワースト4と、水災害への経済的な備えは低い値となっている一方、毎年のように県内の幅広い地域が水災害の被害を受けています。

昨年度、当協会東北支部では、水災害のリスクと損害保険での水災補償の重要性を認識いただくため、一般消費者・自治体関係者向けの啓発動画（※下段リンク参照）を作成しました。今年度は、お客様と日々接する損害保険代理店の皆様に、水災補償を取り巻く状況について理解を深めていただき、お客様のニーズに沿った水災補償の提案に繋げられるよう、損害保険代理店を対象としたセミナーを開催することとしました。

冒頭の開会挨拶として明石会長から、本セミナーを開催した経緯や目的について説明がありました。第1部の講演では、損害保険料率算出機構の扇本 岳大氏と石黒 貴彦氏が登壇し、扇本氏から、山形県の水災リスクの傾向や火災保険水災補償の付帯率の推移などに触れ、「山形県では比較的水災リスクが高いエリアに人が多く住んでいるため、契約者が直面している水災リスクは比較的高い」といった説明がありました。続く第2部のパネルセッションでは、令和6年7月25日からの大雨による災害を踏まえ、酒田市在住で料理研究家の三浦 友加氏から、現在の地域の様子について情報共有があるとともに、「コミュニティセンターなどで集まる機会が多いので、そのような場で損害保険に関する情報が得られたら嬉しい」といった要望が寄せられました。また、やまがた損害保険代理業協会副会長の森 浩一氏からは、災害時に高齢のお客様と連絡が取れなかった経験を踏まえ、「予め親族の連絡先を確認することを徹底する運用にした」といったエピソードや「土砂崩れ等が、火災保険水災補償の対象となることを知らない方が半数以上いたため、しっかりと周知していきたい」といったお話がありました。その後、当協会東北支部の松代事務局長から、当協会が作成した啓発ツールの紹介があり、最後に、閉会挨拶として、やまがた損害保険代理業協会の大川会長から、本日の出演者への御礼が述べられるとともに、大川会長が使用しているお客様対応ツールの紹介がありました。

本セミナーの模様は、後日、当協会公式YouTubeチャンネルにおいて、東北6県の損害保険代理店・保険会社社員向けに限定配信を行う予定としています。

当協会東北支部では、今後も、関係機関と連携して防災に関する取組みを推進し、県民の安全・安心に繋げてまいります。

【セミナーパート】*敬称略

1. 開会挨拶：明石 昌樹（日本損害保険協会東北支部山形損保会会長）
2. 第1部：講演「山形県における火災保険水災補償の現状」
扇本 岳大（損害保険料率算出機構 火災・地震・傷害保険部 個人火災グループ）
3. 第2部：パネルセッション「大雨災害時のお客様対応について」
三浦 友加（料理研究家）
森 浩一（やまがた損害保険代理業協会副会長／株式会社 Human Support）
4. 日本損害保険協会東北支部からのご案内：
松代 貴志（日本損害保険協会東北支部事務局長）
5. 閉会挨拶：大川 淳（やまがた損害保険代理業協会会長）

【※啓発動画リンク】

「東北の水災害にどう備える？～身近な対策を考えよう～」

<https://youtu.be/FnEVOAVfQ5M>

【セミナーの様子】



開会挨拶（明石会長）



第1部講演の様子



左：石黒 貴彦氏
右：扇本 岳大氏



第2部
パネルセッションの様子



三浦 友加氏



森 浩一氏



東北支部からのご案内
(松代事務局長)



閉会挨拶（大川会長）